

Google Earth で調べたラビーネンツーク

OWCC 中川和道 20220616

Google Earth (グーグルアース、以下 GE と略) は、Google 社によるコンピューター地球儀である。GE が登場する映画『LION/ライオン ~25年目のただいま~』(2016年)が事実だと知って中川は感動し GE の威力に驚いた。映画では、インドで5歳の時に両親とはぐれてしまいオーストラリア人夫婦に引き取られたサルーが幼い頃の記憶を頼りに GE を使ってはぐれた場所の探索に成功し 25年ぶりに本当の家族と再会する。GE の威力とともに探索に集中するサルーの情報処理能力がめきめき上達する様子に中川は舌を巻いた。若い世代へのやっかみさえ覚えたほどだ。

この有力なツールを中川は登山に使ってはいる。本格的に使ったのは 2017 年の労山大阪・兵庫 50 周年記念ヒマラヤ登山隊でだ。ニャルレクの未踏峰を GE で事前調査した。残念ながら当時は未踏峰核心部のデータが欠けていた。もとの衛星写真データが欠落していたのだろう。実際にアタックを試みた仲間たちは、写真になかった部分に現れた困難な核心部に阻まれて涙を飲んだ。

日本の山々では中川は何年も使ってきた。ここでは今年 2022 年 5 月連休での使用例を紹介する。

図 1 の主要部分は GE、挿入部は 5/4 の撮影写真である。北穂高岳東稜の登攀日 5/3 に松田・杉川らと議論の末、大雪から顔を出して立ち並ぶ立木の列(図を参照)をたどる登攀ルートを決め、雪崩を免れて北穂高岳東稜中間部のトレースに成功した。下山後、このルートを図 1 の GE 本体の夏の写真で調べた。すると、立木の雪面の下には予測どおり尾根があり、この尾根

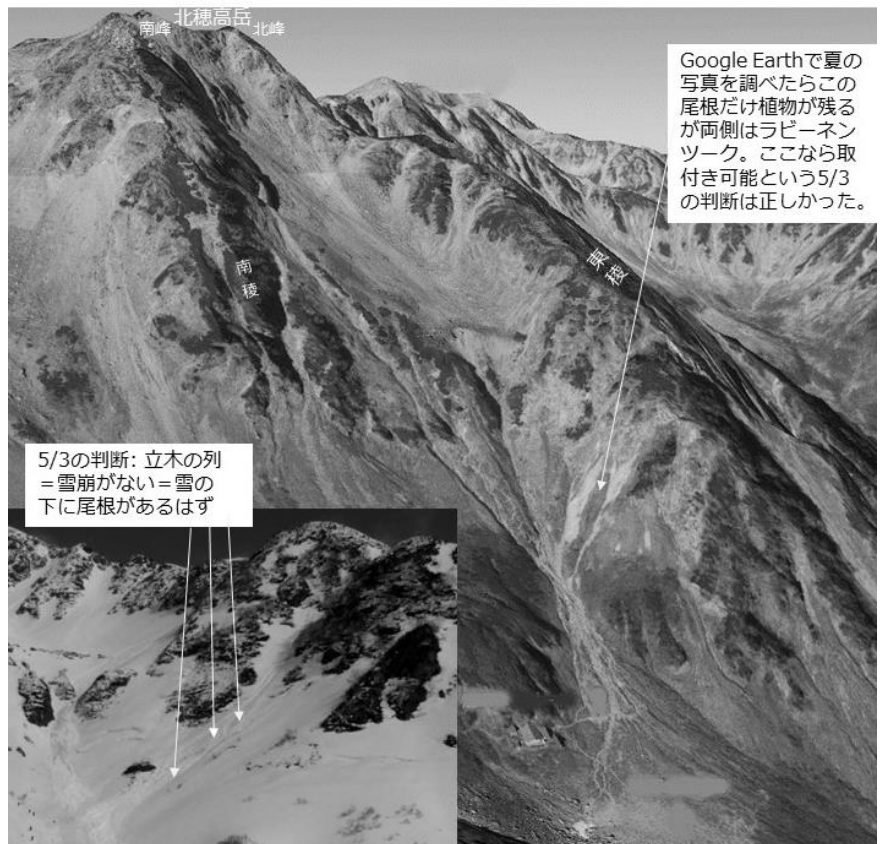


図 1. Google Earth を引用し加工した夏の写真。挿入は 22 年 5/4 涸沢で撮影

だけは植物が残るが、両側は小石が積もったラビーネンツーク(雪崩の通り道)であることが明らかとなった。また、今回は紙面の都合で省くが、懸垂下降点の選定にも GE のラビーネンツーク特定が有効に働いたことが分かった。ぜひ山行記録にまとめたい。

雪崩をまたひとつ学んだ。コロナのため 3 年も見送りになってやっと実現した 5 月連休雪山アルパインクライミング。一応の成功に感謝している。今後も、サルーを見習って山に向かおう。

次回は「山のライブカメラで探る雪山アルパインクライミングルートたち」と題して、白馬岳主稜、前穂高北尾根、北穂高東稜などのカメラ画像 活用 URL の予定です。(つづく)